

中部臨空都市

写真は今年 5 月作成の「中部臨空都市 計画平面図」である。伊勢湾新拠点をめざして、「次世代産業技術のグローバルゲートシティ」「国際性のあるにぎわいを備えた新たな生活を提案するライフスタイル創造都市」「次世代を担う国際人を育む都市」という、まちづくりコンセプトを掲げる。写真を見ても空き地が目立ち、「中空」を象徴しているようだ。



中部臨空都市は、中部国際空港の空港島と対岸部「前島」の地域開発用地である。空港島に地域開発用地が造成されたのは中部が最初であり、「需要創出型空港」をめざす。地域開発用地は 240 ヘクタールであり、愛知県企業庁が造成した。空港本体とともに、関連した地域開発、とりわけ「前島開発」に疑問を投げかけてきた。

朝日新聞 1998 年 6 月 10 日付の論壇で「中部空港は万博前にこだわるな」と主張した。この論壇は 6 月 20 日の *Asahi Evening News* に英訳された。さらに 2000 年 5 月 17 日夕刊で「中部空港の『前島』開発見直し」という見出しで次のように述べた。必要性に乏しく、採算面から民間企業も二の足を踏むような前島開発をなぜ強引に進めるのか。「地元対策」もあるが、前島は空港島と一体で計画され、前島の大幅な見直しは開港の遅れに直結するからだ。---- 愛知万博のように、とりあえず前島などの関連開発を抜本的に見直す決断を期待したい。

今年には空港開港から 10 年、埋め立てから 15 年であり、先ごろ「中部国際空港と前島開発」というテーマで報告する機会があった。現地・常滑に通って調査し、「発言」を続けてきたので、懐かしい思いをもって報告した。報告の中心は、2002 年の名古屋地裁での「9・11 証人尋問」である。9 月 1 日のレポートに私の「証言書」を掲載した。10 月 8 日には、伊勢・三河湾の漁船での調査についてレポートした。

久しぶりに当時の資料を探していると、貴重な写真や映像が見つかった。レポートでも紹介した、お世話になった漁師の坂口さん、西條先生などが思い起こされた。それと空港島の埋め立てが始まった 2000 年 8 月 1 日に、NHK のニュースで放映された映像である。空港の問題点として、伊勢・三河湾の環境、空港の採算性、そして「前島」の必要性和需要面に問題があると指摘した。報告でも当時の映像を流した。「緊張の夏」のインタビューであったが、なかなか鋭い指摘をしていた、と我ながら感心した。

(2014 年 11 月 1 日)